

令和5年度

学 力 向 上 プ ラ ン
【前期】

上尾市立太平中学校

目 次

上尾市立太平中学校学力向上プラン「グランドデザイン」	1
----------------------------	---

1 学力調査結果の概要

(1) 上尾市立小・中学校学力調査	2
【1～2年生：国語、数学、英語（1年のみ）】	
(2) 全国学力・学習状況調査	4
【3年生：国語、数学、理科】	
(3) 埼玉県学力・学習状況調査	5
【1年生：国語、数学】	
【2～3年生：国語、数学、英語】	

2 学力向上を図る取組

(1) 各教科の授業における取組	7
① 国語科 学力向上プラン	
② 社会科 学力向上プラン	
③ 数学科 学力向上プラン	
④ 理科 学力向上プラン	
⑤ 外国語科 学力向上プラン	
⑥ 他教科の授業改善	
音楽科、美術科、保健体育科、技術・家庭科、特別の教科 道徳	
(2) 教育活動全体を通じた取組	17
○本校の特色ある取組	
○家庭教育との連携	

上尾市立太平中学校 学力向上プラン「グランドデザイン」

学校教育目標
社会に貢献できる人材の育成

校訓 ～凡事徹底～

学校課題研究主題

すべての生徒に「わかった」・「できた」を味わわせ、
 伸びる喜びを実感させる指導の工夫・改善
 ～特別支援教育の視点を取り入れた学校づくり～

学力・学習状況調査の結果

R4 全国学力・学習状況調査

【国語】 目的に応じて、文章を理解し、自分の考えを表現することに課題がある。書くことにおいては全国平均を上回っているが無解答率が高い。
【数学】 全体的に記述式の問題の解答に課題が見られる。特に文字を使って事象を抽象的に表現することが苦手である。
【理科】 表やグラフから数値を読み取ることが苦手で、記述式の問題では無解答率が高い。
【質問紙】 学校に行くのが楽しいと回答した生徒が全国平均を上回っている。1日のゲームをしたりスマートフォンを利用している時間が平均に比べて長い。

R4 埼玉県学力・学習状況調査

【国語】 学力の伸びは県平均とほぼ同等であるが、聞く・話すの領域で課題が見られる。
【数学】 県平均と比べ、データの活用や資料の整理の問題を苦手としている生徒が多い。
【英語】 2・3年生ともに書くことの領域に関する問題を苦手とする生徒が多く、無解答率も高い。
【質問紙】 友人や周りの大人から自分が認められていると感じており、学校生活が充実したものとなっている生徒が多い。課題としては、家庭での学習時間が全学年で短い。

R4 上尾市立小・中学校学力調査

【国語】 漢字の読み書きに関する問題は全学年でしっかりと取り組んでいることを続ける。文章を読み取る力が弱い。
【数学】 証明問題などの記述式の問題では無解答率の生徒が多い。また、文章問題の正答率が低い。
【英語】 英作文や記述問題など、書くことに関する問題、表現の能力に関する問題に課題がある。基礎的な単語力を身に付けさせる必要がある。

本校で身に付けさせる学力

知識及び技能の習得	思考力・判断力・表現力等の育成	学びに向かう力・人間性等の涵養
<ul style="list-style-type: none"> ○読む、聞く、話す力の育成 ○計算力の育成 ○知識・技能に繋がる理解力 	<ul style="list-style-type: none"> ○課題や問題に向き合い、解決していく力の定着 ○自らの考えや思いを伝える力の育成 	<ul style="list-style-type: none"> ○粘り強く学習に取り組む姿勢や態度 ○自らの学習方法や態度がより良いものになるように調整する力

学力向上のための授業改善

知識及び技能の習得	思考力・判断力・表現力等の育成	学びに向かう力・人間性等の涵養
<ul style="list-style-type: none"> ○ドリル学習の充実 漢字練習、計算練習、小テスト、学びポケット等で自動採点ドリル学習の実施。 ○ICT 端末の活用 Chromebook などを活用し、よりわかりやすい授業を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○課題設定の工夫 身近な話題や興味のある課題を設定し、思考力・判断力を高める授業を行う。 ○表現力を高める授業 論述やレポートの作成、発表、作品の制作や表現など多様な活動を取り入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○興味関心を高める工夫 本時の課題や評価を明示することで授業への参加意識を高める。 ○振り返りの時間の設定 授業の終末に振り返りの時間を設定し、次の授業への意識付けを図る。

本校の特色ある取組

- 太平中レインボープランの実施
[挨拶] [高唱] [表明] [傾聴] [称揚] [整頓] [黙読]
- ステップアップチャレンジの実施
1学期：国語(漢字) 2学期：英語(単語) 3学期：社会
- 朝読書における読み聞かせの実施
- 学年・学級の日
部活動を停止し、係活動や学習の補習など、放課後活動の時間を確保

家庭教育との連携

- ICT 端末を活用した家庭学習の充実
eboard や Google classroom の活用
ICT 端末を活用した課題の提示
- 道徳通信の発行(毎月1回)

1 学力調査結果の概要

(1)上尾市立小・中学校学力調査(令和5年1月実施)

第1学年(令和5年度第2学年)【国語】

項目	項目	
考察	<ul style="list-style-type: none"> ・領域内容別に見てみると、作文や要旨を正確に捉える問題の正答率が他の問題に比べて著しく低い。 ・内容を推敲する問題は平均を大きく上回っており、漢字を正しく読んだり書いたりする問題もしっかりと解答できている。 	
課題	(課題) 人物の心情や文章の要旨、場面の展開を読み取る力に課題が見られる。	(要因分析) 心情描写の表現、接続語の役割、文章の構成や仕組みを理解できていない。
今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な描写から登場人物の心情を読み取れるように、具体的な描写の例を参考にしながら、作文などを通して表現の使い方を学ぶ。 ・段落の中の重要な情報に着目して要約させる。また、文や段落の関係について接続詞を意識して結びつけることで、内容を正確に捉えさせる。 	取組の効果

第1学年(令和5年度第2学年)【数学】

項目	項目	
考察	授業でも、前向きに学習しようとする生徒は多いが、数学に苦手意識のある生徒も多く感じる。基礎問題には取り組もうとするが、応用問題に消極的な姿勢が見られる。	
課題	(課題) 基本的な四則計算の定着 文字を使った計算を習慣付ける	(要因分析) 文字式の計算問題の正答率が全国の8割程度になっていることから、文字と式の単元の定着が必要であると考え。
今後の取組	既習内容を扱う際に、復習問題に取り組むことで、知識の定着を図っていく。また、定期テストに計算問題を毎回出題することで、家庭で復習する習慣を身に付けさせたい。	取組の効果

第1学年(令和5年度第2学年)【英語】

項目	項目	
考察	「聞くこと」の平均正答率は全国平均を上回っている。一方で、「読むこと」「書くこと」はどちらも全国平均を下回っている。特に、様々な英文(長文含む)の読み取りと場面に応じて書く英作文(3文以上の英作文含む)においては、目標値に大きく届いていない。	
課題	(課題) 語形や語法の知識の定着に課題が見られる。基本的な文の語順を理解していない。必要な情報を読み取ることに課題がある。	(要因分析) 言語活動を通して既習の語順や語形・語法を繰り返し扱う。言語活動において適切な目的・場面・状況の設定が必要である。相手に伝わるように具体的にふさわしい説明や記述をさせる。
今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・学習した類似問題を繰り返し出題し、基礎の定着を図る。 ・毎時間の授業内で英作文を作る機会を作る。 ・会話活動でのスキット作りを定期的に行い、よく使う表現や定型文などを身に付けさせる。 	取組の効果

- A・・・取組の効果が十分に見られた
- B・・・今後も課題として取り組む
- C・・・取組を見直す

1 学力調査結果の概要

(1)上尾市立小・中学校学力調査(令和5年1月実施)

第2学年(令和5年度第3学年)【国語】

項目	項目	
考察	主体的に学習に取り組む態度が、全国平均を12ポイント上回っているが、点数としては平均を1点下回っている。知識・技能の観点でA評価の生徒が全体の2割にとどまり、「読むこと」の伸び悩みにつながっていることが要因の一つであると考えられる。半面、「書くこと」は全国平均を3ポイント上回っており、手紙や創作などの活動を取り入れたことで、主体的な学びにつながったことが伸びにつながっているのではないかと考えられる。	
課題	(課題) 基本的な問題でも、単答・記述形式の問題において、無答率が2割を超えていることが課題である。	(要因分析) 論理的な説明の仕方になれていないため、自分で考え、判断し、組み立てて、表現することに苦手意識がある生徒が少なくないと考えられる。
今後の取組	授業で、文法・語彙・文章の構成に着目させる場面をより多く設定し、基礎的な学力を定着させる。さらに、論理的思考を意識させながら日常の言語活動に取り組ませる。	取組の効果

第2学年(令和5年度第3学年)【数学】

項目	項目	
考察	体の正答率は、全国平均と5.3ポイント差であった。問題別や領域別に見ると、全国平均と同程度の正答率になっている問題も多かった。しかし、活用問題は、大きく下回る問題が多く、課題があると感じる。「主体的に学習に取り組む態度」の正答率が低く、数学に苦手意識を持つ生徒が多いことが調査結果からも読み取れる。	
課題	(課題) 領域では、「数と式」に課題がある。	(課題) 授業でも、基礎的な計算問題を扱っているが、知識の定着が不十分であると感じる。引き続き繰り返し取り組むだけでなく、既習事項の復習にも力を入れていきたい。
今後の取組	正確に、基本的な問題が解けるように練習を重ねる。その手立てとして、毎週行っている『家庭学習(自学ノート)』を利用する。「コバンプリント」用意し、その他にも計算問題を中心としたプリントを準備する。その課題をやり終えた後は提出・点検を行い、問題の中から定期テストにも出題するなど、繰り返し学習に取り組ませる。基礎学力が身につけている生徒に対しては、ワークなどを利用して応用力の向上に力を入れさせる。	取組の効果

第2学年(令和5年度第3学年)【英語】

項目	項目	
考察	全国平均を下回り、多くの課題がある。特に「3文以上の英作文」と「長文の読み取り」が苦手な生徒が多い。 また、「書くこと」に関して書くことを諦めてしまっている生徒が多い。	
課題	(課題) 基本的な文法構造を理解していない。	(要因分析) ・英単語と英文法を忘れている生徒が多い ・長文読解に慣れていないこと ・英問の答え方を理解していないこと
今後の取組	・新出事項だけでなく既習事項も触れる活動を行うこと ・長文問題にも慣れていくこと ・英語の質問に正しく答える練習をすること	取組の効果

A・・・取組の効果が十分に見られた

B・・・今後も課題として取り組む

C・・・取組を見直す

(2) 全国学力・学習状況調査(令和4年4月実施)

国語

考察(問題と結果の分析)

全体として全国より7ポイント低い結果となっている。書くことにおいて、正答率は全国より高いが記述形式のためか無回答率が13.9%となっていることは課題として残る。また、自分の考えを相手にわかりやすく伝える工夫をして話したり、文脈に沿って読んだりする力が身に付いていないことから、思考力・判断力・表現力が全国平均より13~14ポイント低くなっている。

各学年における重点指導事項

3年	・論理的な思考を意識させ、説得力のある発言や文章表現を身に付けさせる。
2年	・目的や相手を明確にし、書き出しを例示しながら様々な種類の文章を書く場面を設定する。
1年	・司会・発言の形を学ばせ、様々な話し合いの場で活用させることにより、話し合いのスキルを身に付けさせる。

数学

考察(問題と結果の分析)

領域D(データの活用)に比べ、領域A(数と式)、領域B(図形)、領域C(関数)の数値が県、全国平均より10ポイント以上低くなっている。ただ「数学の勉強は好きですか」にあてはまると答えた生徒が44.0%(全国29.9%)、「数学の授業はよくわかりますか」50.0%(全国36.1%)、「数学の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考えますか」43.0%(全国33.9%)と良好な数字が表れている。生徒の中に家庭学習の定着が図られていない。

各学年における重点指導事項

3年	・計算力を含めた基礎・基本の徹底 ・授業中に説明させるなど、「思考力・判断力・表現力」の伸長
2年	・基礎、基本の定着を図るために、小テストや演習プリントを実施する。 ・少人数グループ(3~4人)で問題解決に取り組み、理解を深める。
1年	・プリント学習、繰り返しの指導による基礎基本の定着。 ・個人の課題解決と教え合い活動など演習の時間を多くとり、「思考力・判断力・表現力」を鍛える。

理科

考察(問題と結果の分析)

表やグラフから数値を読み取ることが苦手である。また、全体的に基礎的・基本的な知識及び技能の定着が不十分であり、特に記述式の問題では、空欄の生徒が多い。よって、実験・観察の時は、個人や小グループ(3~4人)で仮説、検証、分析、考察を一連の流れとし、授業の終末には、振り返りや小テストを行い、繰り返し学習の時間を設定し、課題解決にむけて取り組んでいく。

各学年における重点指導事項

3年	毎時間の授業の課題を明確にし、導入を身近な物事・事象を用いて課題に対する関心を高める。観察・実験では、個で取り組ませる時間をできるだけ確保し、一人一人の実験技能を高めていく。授業の終末には、振り返りを大切に、多くの問題を解き、基礎・基本の知識を身に付けさせる。
2年	基礎的な知識を身に付けるために、毎時間小テストを行い、繰り返し学習の定着を図る。実験は個人や少人数(3~4人)で行わせ、考察では、他者との意見交換の場を取り入れて課題を深めていく。
1年	毎回の授業で課題を明確にし、授業の振り返りを必ず取り入れる。また、仮説・検証・結果・考察・まとめを授業の展開として統一する。考察では、個→班→個の一連の中で話し合いを行い、科学的思考力の定着を図る。

(3) 埼玉県学力・学習状況調査(令和4年5月実施)

国語

学年	項目
1年	<p>考察(現状分析・実態)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学力レベルは、県の平均より1.4ポイント低い。特に「話すこと・聞くこと、書くこと」が4.9ポイント低く、問題形式では記述式の問題の正答率が7.3ポイント低い。これらのことから、「思考・判断・表現」に課題が見られる。
	<p>これまでの成果と今後の取組(調査結果を踏まえて)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漢字や語句の繰り返し学習を行い、小テストを定期的に行ったことで、漢字の読み書きや言葉の意味、敬語などの力がついてきている。 ・授業の振り返りや作品の感想など作文を書く機会を増やす。
2年	<p>考察(生徒の伸びの傾向・実態)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学力の伸びは、県の平均の伸びと同等であるが、学力レベルは県を1ポイント下回っている。 ・上位層は伸びているが、中位層にほとんど変化はなく、下位層の学力は下がっている。 ・文の構成の理解や文脈に即して助詞の意味を理解することに課題がある。
	<p>これまでの成果と今後の取組(調査結果を踏まえて)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループ活動を積極的に取り入れたことが上位層の学力の伸びにつながったと考えられる。 ・文法の学習以外でも、日々の授業の中で新出語句の学習などの際に、文の成分(主語、述語・修飾語等)を意識させた短文作りを行うなど継続的な指導を行う。
3年	<p>考察(生徒の伸びの傾向・実態)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学力の伸び率は県よりも0.3ポイント上回っている。 ・上位層の伸びは鈍化しているが、中位及び最下位層は伸びている。 ・心情理解と表現の工夫に課題がある。
	<p>これまでの成果と今後の取組(調査結果を踏まえて)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学び合い学習の取組が中間層と最下位層の伸びにつながったと考えられる。 ・基本事項の定着を継続するとともに、実践的な課題に取り組む機会をさらに増やしていく。

数学

学年	項目
1年	<p>考察(現状分析・実態)</p> <p>学力レベルは県と比べて4.2ポイント低い。教科の領域では数と計算の分野で県、市よりも5ポイント大きく下回り、評価の観点でも「思考・判断・表現」の分野で5ポイント以上下回り、問題形式の観点では、「記述式」のポイントを県、市ともに9ポイント以上下回りかなりの課題が残る。</p>
	<p>これまでの成果と今後の取組(調査結果を踏まえて)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まずは基礎基本の定着を図るため、演習量を増やし、小テストなど多く問題を解く。 ・教え合い活動や、自分の考えを伝える活動、時間を多く設け自分の考えを説明できるようにする。 ・繰り返しの指導や、スモールステップなど思考を段階的にすることでわかりやすくする。
2年	<p>考察(生徒の伸びの傾向・実態)</p> <p>平均正答率は44.7ポイントであり、県と比べて8.0ポイント下回っている。領域ごとの平均正答率は、どの領域も県平均を下回っているが、「図形」の分野で9.5ポイント差がある。観点ごとの平均正答率は、「思考・判断・表現」が4.9ポイント差であることにに対し、「知識・技能」では8.4ポイント差であることから、基礎的な知識の定着が課題であると考えられる。</p>
	<p>これまでの成果と今後の取組(調査結果を踏まえて)</p> <p>小テストや演習プリントを用いて演習時間を確保していく。定期テストに向けた勉強に力を入れ、テスト後に復習をしない生徒が多いので、既習事項を確認する場面を増やし、知識の定着をはかる必要がある。また、生徒の言葉で説明する場面を設定する際に、記述することにも力を入れていきたい。</p>
3年	<p>考察(生徒の伸びの傾向・実態)</p> <p>学力を伸ばした生徒の割合は69.6%(県64.2%)、学力の伸び率は1.9(県1.5)と頑張っている様子が見えてくる。正答率は、図形、関数の分野で、県の平均との差が大きくなっている。評価の観点では、「思考・判断・表現」が32.7(県・市とも46.4)と低い。問題形式では、「記述式」が37.3(県49.6、市51.3)と苦手としている。</p>
	<p>これまでの成果と今後の取組(調査結果を踏まえて)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計算等の基本的な問題は、授業開始時の「3分間テスト」を引き続き行い、定着を図る。 ・「思考・判断・表現」力を伸ばすため、授業において説明させる時間などを設け、自分の言葉を用いて考え方の説明などを多く取り入れたい。

英語

学年	項目
2年	<p>考察(現状分析・実態)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・正答率は県平均よりも10.9も低い。 ・知識、技能が特に県平均と乖離が大きく、基礎的・基本的な語彙や文法が定着していないことにより、発展的な書く問題や表現の問題が解けない。 ・短答式や記述式の正答率が低い事からも基礎的・基本的な語彙や文法が定着していないことが分かる。
	<p>これまでの成果と今後の取組(調査結果を踏まえて)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的な知識の定着を図るため、毎時間の授業の導入時に基本文を暗唱する練習を実施する。 ・毎時間文法の簡単な問題を出し、基本的な文法構造の定着を図る。
3年	<p>考察(生徒の伸びの傾向・実態)</p> <p>学力を伸ばした生徒の割合は75.5%(県平均83.3)で、伸び率は2.7(県平均3.1)で、全体として努力が必要である。</p> <p>問題では、接続詞の問題、存在を表す英文の問題、自分の考えを書く英作文の問題で課題が見られた。</p> <p>一方で、文章から考えや出来事の原因を読み取る問題は県平均レベルでできていた。</p>
	<p>これまでの成果と今後の取組(調査結果を踏まえて)</p> <p>文法としては、be動詞、未来に関する英文、接続詞のthatに関する英文は言語活動で使う頻度が高いため、正答率が高く表れたと考える。一方で、自分の考えを書く英作文の問題で課題が見られた。そのため、今後の言語活動では、自分の考えを含めて書かせる機会を増やしていく。</p>

2 学力向上を図る取組

(1) 各教科の授業における取組

① 国語科 学力向上プラン

重点的に伸ばす学力

- ・ 語彙力、言語能力の向上
- ・ 思考力・判断力・表現力の育成

各学年の授業改善

学年	具体的な取組	取組の効果
1年	<ul style="list-style-type: none">・ 新出漢字や、慣用句、ことわざ、故事成語の確認テストを行う。・ 単元ごとに読んだ文章の初発の感想を書かせる。・ 自分の考えを発表したり、交流したりして相手を意識してわかりやすく伝えさせる。	
2年	<ul style="list-style-type: none">・ 辞書を常時机の上に置いて活用する習慣を身に付けさせ語彙の拡充を図る。・ ICTの活用により繰り返し学習を意図的に授業の中に組み込んで、語彙力の定着を図る。・ 目的や相手を明確にし、書き出しを例示しながら様々な種類の文章を書く場面を設定する。	
3年	<ul style="list-style-type: none">・ 各単元に取り組む中で、新出語句の意味を辞典で調べたり、関連する言葉やことわざをまとめたりすることで、言語知識や語彙を習得させる。・ 意見交換やレポートの発表、プレゼンテーション、ディベートなどの機会を増やすことで、意見の伝え方を学ぶと共に、聞く力を高めさせる。・ 多くの古典に触れ、その言葉のリズムに慣れ、古語の意味や歴史的仮名遣いを学び、大まかな意味を読み取れるようにする。	

② 社会科 学力向上プラン

重点的に伸ばす学力

- ・地理 都道府県の位置や名称、世界の国々の国名の理解
- ・歴史 歴史上の人物とその人物に関する歴史的事象の理解
- ・公民 憲法条文等の基本的用語の習得

各学年の授業改善

学年	具体的な取組	取組の効果
1年	<ul style="list-style-type: none"> ・基本事項確認の小テスト（国名・歴史事象等）を実施する。 ・ICTを活用し、具体的な視聴覚教材などを利用して学習課題に関心をもたせる。 ・小グループによる話し合い活動を取り入れ、主体的な学習を促す。 	
2年	<ul style="list-style-type: none"> ・基本事項確認の小テスト（県名・歴史事象等）を実施する。 ・ICTを活用し、具体的な視聴覚教材などを利用して学習課題に関心を持たせる。 ・基本的なグラフや表の読み取りの方法を習得させる。 ・小グループによる話し合い活動を取り入れ、複数の意見から自分の意見をまとめさせる。 	
3年	<ul style="list-style-type: none"> ・基本事項確認の小テスト（憲法条文等）を実施する。 ・ICTを活用し、具体的な視聴覚教材などを利用して学習課題に関心をもたせる。 ・複数の資料から必要な情報を読み取る力を養う。 ・小グループによる話し合い活動を取り入れ、習得した知識・技能を活用したまとめを行わせ、発表させる。 	

③ 数学科 学力向上プラン

重点的に伸ばす学力

- ・ 基礎的な計算能力
- ・ 筋道を立てて数学的に説明する力

各学年の授業改善

学年	具体的な取組	取組の効果
1年	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学び合いの時間を設定し、伝える力を伸ばす。 ・ ICTを活用し、視覚的に捉えやすい教材を作成することで、思考を深める授業作りを行う。 ・ ワークを使用し、問題演習の時間を多く確保する。 ・ 小テストを行ったり、計算プリントを活用したりすることで、計算力アップを図る。 	
2年	<ul style="list-style-type: none"> ・ ICTを活用し、視覚的に捉えやすい教材を作成することで、思考を深める授業作りを行う。 ・ 毎時間工夫したワークシートを作成・用意し、基礎的・基本的な知識の習得ができるようにさせる。 ・ ワークを使用し、問題演習の時間を多く確保する。 ・ コバトンプリントを活用し、計算力アップを図る。 	
3年	<ul style="list-style-type: none"> ・ 毎時小テストを実施し、計算能力の向上を図る。 ・ ICTを活用し、視覚的に理解が深まるようにさせる。 ・ 教え合いの時間を確保し、生徒の深い学びを実現する。 ・ ワークを使用し、問題演習の時間を多く確保する。 	

④ 理 科 学 力 向 上 プ ラ ン

重点的に伸ばす学力

- ・ 観察・実験の基本的な技能の習得
- ・ 仮説と結果を比較して考察し、まとめる力の定着

各学年の授業改善

学年	具体的な取組	取組の効果
1年	<ul style="list-style-type: none"> ・ レポートの書き方を学ばせ、仮説→結果→考察→まとめの過程から科学的な思考力の定着を図る。 ・ 小单元ごとに小テストや復習を行い、基礎基本な知識の定着を図る。 ・ 生徒一人一人が主体的に観察・実験をする機会を確保し、観察や実験技能を習得させる。 ・ 授業の終末で学習内容を振り返る時間を確保し、確実な定着を図る。 	
2年	<ul style="list-style-type: none"> ・ 個別に器具を使用させ、観察・実験に取り組ませる。 ・ 同様の方法で行える観察・実験に繰り返し取り組ませることで、観察・実験技能を習得させる。 ・ 観察・実験時には予想と結果の比較や分かったことを整理させる ために、レポートを作成させる。 ・ 前時までの確認テストを行い、基礎的基本的な知識の定着を図る。 	
3年	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実験器具の名称や科学的な用語を定着させる。 ・ レポートの書き方を学ばせ、まとめる力を定着させる。 ・ 生徒一人一人が主体的に観察・実験をする機会を確保し、目的 意識を持って、取り組ませる。 ・ 毎時間の小テストや宿題での復習で基礎基本の定着を図る。 ・ 授業の終末で学習内容を振り返る時間を確保し、確実な定着を図る。 	

⑤ 外国語科 学力向上プラン

重点的に伸ばす学力

- ・基礎基本の学力の定着
- ・言語活動における表現の能力

各学年の授業改善

学年	具体的な取組	取組の効果
1年	<ul style="list-style-type: none"> ・語彙力向上を図るため、ワークシートや会話活動で多くの語彙に触れさせ、その活用を促す。 ・間違いを恐れずに英語を話したり、英文を書いたりできるように、学習過程を工夫する。 ・指導と評価を一体化させ、生徒の学習意欲を喚起するとともに、学力の確実な習得を図る。 	
2年	<ul style="list-style-type: none"> ・即興で答える場面を設定し、考えを言葉に変える練習をさせる。 ・ICTを効果的に活用する。 ・間違えた問題を繰り返し行い、基礎の定着を図る。 ・指導と評価を一体化させ、生徒の学習意欲を喚起するとともに、確かな学力の向上を図る。 	
3年	<ul style="list-style-type: none"> ・ペアやグループなど、使用場面に応じて学習形態を工夫し、一人一人が確実に技能を身に付けられるようにさせる。 ・ICTを効果的に活用する。 ・学習した類似問題を繰り返し出題し、基礎の定着を図る。 ・指導と評価を一体化させ、生徒ができるようにすることを明確にすることで学習意欲を喚起する。 	

⑥ 他教科の授業改善

○音楽科

1年	<p>《身に付けさせる学力》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歌詞の内容や曲想を感じ取り、曲種に応じた発声で、言葉の特性を生かして表現できるようにする。 ・言葉やリズムなどを生かし簡単な旋律をつくる能力を育てる。 <p>《具体的な取組》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歌詞の読み取りを行い、曲想に合わせた発声方法を身に付けさせる。 ・どの活動においても、自らの思いや意図を互いに共有させる。
2年	<p>《身に付けさせる学力》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パートの役割や全体の響きとの関わりを理解して表現を工夫する。 ・多様な音楽に対する理解を深め幅広く鑑賞をする。 <p>《具体的な取組》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話し合い活動を充実させ、お互いの思いや考えを共有させる。 ・ICTを活用し、鑑賞への関心を高める。 ・音符・休符の種類、音楽記号等を確認させ、基礎・基本の定着を図る。
3年	<p>《身に付けさせる学力》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パートの役割や全体の響きとの関わりを理解して表現を工夫する。 ・多様な音楽に対する理解を深め幅広く鑑賞をする。 <p>《具体的な取組》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話し合い活動を充実させ、お互いの思いや考えを共有させる。 ・ICTを活用し、鑑賞への関心を高める。 ・音符・休符の種類、音楽記号等を確認させ、基礎・基本の定着を図る。

○美術科

1年	<p>《身に付けさせる学力》</p> <ul style="list-style-type: none">・自分の思いを表現するために必要な基本的な材料の準備や用具の使い方を工夫する思考力を身に付ける。・自然や人物、身近にあるものなどをよく観察し、感じ取った形や色彩などを もとに、作品の主題を生み出す表現力を身に付ける。 <p>《具体的な取組》</p> <ul style="list-style-type: none">・毎時間、ワークシートを活用し、振り返り（自己評価）を行わせることで、何を学んだのかを確認できるようにさせる。・生徒一人一人が作業の流れを理解して、意欲的に学習に取り組めるよう、 スモールステップで課題を提示する。・Classroom を利用して自分の時間で復習できるようにする、また、小テストも行い、基礎知識を定着させる。
2年	<p>《身に付けさせる学力》</p> <ul style="list-style-type: none">・初めての題材にも意欲的に取り組み、構成できる思考力を身に付ける。・色彩や形などの伝達効果を考えながら表現の構想を練る力を育む。多くの人にとって分かりやすく、美しい色彩を構成する表現力を養う。 <p>《具体的な取組》</p> <ul style="list-style-type: none">・1つの題材から様々な技法を使い、多様な表現方法があることを実物で示す。さらに 生徒一人一人の表現力が高められるよう、進度に合わせた個別の声かけを行う。・Classroom を活用し、生活を豊かにする美術、自己を表現するヒントを学び取れるようにする。
3年	<p>《身に付けさせる学力》</p> <ul style="list-style-type: none">・自らが強く表したいことや主題を明確にし、豊かに表現できる力を身に付ける。・日本及び諸外国の作品鑑賞や体験を通して、日本の伝統文化の良さを知る。さらに主体的な表現力を身に付ける。 <p>《具体的な取組》</p> <ul style="list-style-type: none">・実際に工芸品の素材に触れたりすることで、多様な表現の可能性を広げ、日本の文化を理解する。・グループ活動などの対話的学習を取り入れ、自分の価値意識がどのように変容し深まったかを考えさせる。さらに、クロムブックを利用して記録を残し可視化する。

○保健体育科

1 年	<p>《身に付けさせる学力》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運動の楽しさや喜びを味わい、健康・安全について理解する。 ・運動や健康についての自他の課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し、判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。 ・健康や安全に留意しながら、自己の最善を尽くして運動をする態度を養う。 <p>《具体的な取組》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業のねらいを明確にし、その時間に身につけるべき力を焦点化する。 ・学習カードやICTを活用し、生徒の思考と対話を活性化させることで、運動への理解を深めさせる。 ・保健分野では日常の場面を想定した問いかけや活動を提示し、実生活に結び付きやすいよう、知識の定着と行動の表面化を図る。
2 年	<p>《身に付けさせる学力》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運動の豊かな実践や、健康・安全な個人生活のための基本的な技能を養う。 ・運動や健康についての自他の課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し、判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。 ・健康や安全に留意しながら、自己の最善を尽くして運動をする態度を養う。 <p>《具体的な取組》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業のねらいを明確にし、その時間に身につけるべき力を焦点化する。 ・学習カードやICTを活用し、生徒の思考と対話を活性化させることで、運動への理解を深めさせる。 ・保健分野では日常の場面を想定した問いかけや活動を提示し、実生活に結び付きやすいよう、知識の定着と行動の表面化を図る。
3 年	<p>《身に付けさせる学力》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生涯にわたって運動に親しみ、健康に生きていくための技能を身に付けさせる。 ・運動や健康についての自他の課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し、判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。 ・他者と適切に関わりながら、生涯にわたって運動に親しみ、心身の健康の保持増進を目指しながら、明るく豊かな生活を送る態度を養う。 <p>《具体的な取組》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習カードやICTを活用し、生徒の思考と対話を活性化させることで、技能や運動への理解、協働への意欲を高める。 ・領域および種目の選択を通じて、生徒自身が学びを互いに学びを深める場を設定する。 ・保健分野では日常の場面を想定した問いかけや活動を提示し、実生活に結び付きやすいよう、知識の定着と行動の表面化を図る。

○技術・家庭科(技術分野)

1年

《身に付けさせる学力》

- ・基礎・基本の読み書き計算の力を身に付けさせる。設計図の寸法計算、問題発見・課題解決の技術的な見方考え方を説明する力を身に付けさせる。
- ・設計図（等角図など）をかけるように、立体を捉えられる力を身に付けさせる。

《具体的な取組》

- ・生徒一人一人が、課題の意味を正確に把握し、既習知識を活用して自分の力で最適な解決策を見いだせるように学習に取り組ませる。また、実習を通して得られた結果について、様々な見方や考え方ができてまとめられるような学習活動を取り入れ、自分の考えを説明する力を身に付けさせる。

2年

《身に付けさせる学力》

- ・発電の仕組みについて説明できる。理科と社会との繋がりを意識して学習させ、経済的・社会的環境的な側面から考える力を身に付けさせる。
- ・エネルギーの変換と利用について、目的に合わせて動作させる方法を理解する。

《具体的な取組》

- ・生徒の発言の場を意図的に設定し、相互のコミュニケーションを促す授業展開をする。
- ・ハイブリッドカーや電気自動車の普及について、理由を話し合ったり重要性を理解したりできるようにさせる。
- ・I o Tの技術について考えさせる。

3年

《身に付けさせる学力》

- ・プログラミングを構成する基本的な仕組みを理解し、ロジックを組む力を身に付けさせる。
- ・目的の動作をさせるためのプログラムを考える力を身に付けさせる。
- ・A I技術について社会的な側面から考える力を身に付けさせる。

《具体的な取組》

- ・課題に対する自分なりの考えを持ち、説明し合う言語活動の場を設定し、的確に根拠を示して説明しているかを確認し合う学習活動を充実させることで、生徒の思考力、判断力、表現力を育成する。
- ・目的のプログラムを構成するための情報を収集し構築方法を考えさせる。
- ・I C Tを活用し、視覚的にわかりやすい授業を展開する。

○技術・家庭科(家庭分野)

1 年	<p>《身に付けさせる学力》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・衣生活、住生活、消費生活の学習を通じて、基礎的、基本的な知識及び技術の習得し学習したことを日常の生活に活かせる力を身に付けさせる。 ・言語活動を通じて課題を見つけ、創造し、解決しようとする力を育成する。 ・必要な情報や技術を適切に選択し、生活に取り入れようとする力を育む。 <p>《具体的な取組》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本時の課題を明確に生徒に示すことで、授業で何を学ぶのかを明確にさせる。 ・ICTを活用し、確実な知識の習得につなげさせる。 ・モデルを示し、体験する機会を多く設定する。必要に応じてグループ活動を取り入れる。
2 年	<p>《身に付けさせる学力》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食物の学習を通じて、基礎的、基本的な知識及び技術を習得し、学習したことを日常の生活に活かせる力を身に付けさせる。 ・言語活動を通じて課題を見つけ、創造し、解決しようとする力を育成する。 ・必要な情報や技術を適切に選択し、生活に取り入れようとする力を育む。 <p>《具体的な取組》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本時の課題を明確に生徒に示すことで、授業で何を学ぶのかを明確にさせる。 ・ノート、ICTを活用し、確実な知識の習得につなげさせる。 ・モデルを示し、体験する機会を多く設定する。必要に応じてグループ活動を取り入れる。
3 年	<p>《身に付けさせる学力》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家族家庭と子どもの成長の学習を通じて、幼児に関する基礎的、基本的な知識及び技術の習得をし、学習したことを将来の生活に活かせる力を身に付ける。家族について考える。 ・各自、また、グループ学習の言語活動を通じて課題を見つけ、創造し、解決しようとする力を育成する。 ・社会の現状、変化に応じて、必要な情報や技術を適切に選択し、生活に取り入れようとする力を育む。 <p>《具体的な取組》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本時の課題を明確に生徒に示すことで、授業で何を学ぶのかを明確にさせる。 ・ICTを活用し、確実な知識の習得につなげさせる。 ・モデルを示し、体験する機会を多く設定する。必要に応じてグループ活動を取り入れる ・自分の将来について考えることにより、自分の生活について考えさせる。

○特別の教科 道徳

1 年	<p>《身に付けさせる力》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・望ましい生活習慣の元で正しい判断ができ、自ら進んで学習し、行動する態度を養う。 <p>《具体的な取組》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道徳オリエンテーションを通して、授業で何を学ぶのかを明確にさせるとともに、授業での考えや意見を掲示して、価値観の共有を図り、意欲を高めさせる。
2 年	<p>《身に付けさせる力》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・集団の中で自分の役割を自覚し、より充実した生き方を求めようとする態度を養う。 <p>《具体的な取組》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーションでの授業方法をふまえ、授業での実践を学級通信や掲示物などで取り上げ、多様な価値観に触れさせ、自己を振り返る機会をつくる。
3 年	<p>《身に付けさせる力》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・かけがいのない自他の生命を尊重し、社会で生きて働く力を身に付けようとする態度を養う。 <p>《具体的な取組》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道徳オリエンテーションでの授業方法をふまえ、授業の取組や実践を学年・学級通信や掲示物などで紹介し、他者の考え方や仲間を認め合うとともに、自己を振り返る機会をつくる。

(2) 教育活動全体を通じた取組

本校の特色ある取組

<p>○太平ゼミの実施</p> <p>○夏季休業中の補習</p> <p>○協同・協働学習 T・L・I 「太平学びのイノベーション」</p> <p>○朝読書における読み聞かせの実施</p>	<p>○定期テスト前の部活動停止期間中に、自分の課題を持ち寄り、学習する場を提供する。分からない問題がある場合は、生徒からの質問に答えて学習補充を行う。</p> <p>○夏季休業中、各教科担当で必要な補習を行う。</p> <p>○少人数のグループに分かれ、話し合い活動を通して答えを探していく学習の機会を増やし、粘り強く考える姿勢や他者と協力して解決策を考える力を身に付けさせる。</p> <p>○各学期に1～2回、朝読書の時間を利用して教師や図書委員、学校運営協議会員による読み聞かせを実施している。</p>
---	---

家庭教育との連携

○オンラインによる家庭学習の充実	○eboard や Google classroom などを活用し、自主学習や家庭で取り組める課題の配布などを行う。自動採点やデジタル採点を導入し、ドリル学習が効率的に実施できるようにしている。
○道徳通信の発行	○月に一度、道徳通信を発行する。各教員より道徳に関する話題や実体験等を踏まえた内容とする。

特別支援学級 指導の重点

生きる力を育み、「自立」と「社会参加」を目標におき、生徒たちの日常生活及び社会生活に必須の内容を取り上げ、将来の職業生活、家庭生活に役立てる。

そのため、生活に結びつく活動を中心にまとまりのある学校生活を組み、生活課題に沿った経験、不均衡な面などの課題をも加味して学校生活の質を高めるようにする。

- 1 「領域・教科を合わせた指導」を教育課程に大きく位置付け、生徒の実態等に即した指導内容を選択・組織し、基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させる。
- 2 社会参加をめざし日常生活や社会生活に必要な技能や習慣が身につくように指導する。
- 3 一人一人の教育的ニーズに応じた個別の指導計画を適宜評価し、指導内容や方法を改善し、個に応じたより効果的な指導を行う。
- 4 ICT機器を効果的に活用し、視覚化をはかり学習への興味関心をもたせる。
- 5 体験的な学習を取り入れて学習効果を高め、般化できるようにする。
- 6 コミュニケーション能力の向上を図り、好ましい人間関係を構築する。